

新しい風ニュース NO197

やまがたの環境とくらしを考える会 (継234)
岐阜県山県市西深瀬208 Tel・FAX 0581-22-4989

なんでも相談 どの政党とも無関係の 寺町ともまさ 2008年2月10日
HP ⇒ <http://gifu.kermin.net/teranachi/> メール ⇒ tera-t@ktroad.ne.jp
毎日、何百もアクセスがある私の日記 ブログ は「てらまち」で検索するのが一番はやいです

倫理条例制定の署名に ご協力を !!

「山県市議会議員及び市長等の倫理に関する条例」制定の請求を進めています。

◆ 直接請求という制度の説明

ひとことという、ある条例を作ったり改正や廃止してほしいとき、
「受任者」が持つ「署名簿」に「有権者」が「自署」して集まった「署名簿」を提出、
その後、「市長」が「議会を召集」し、「条例案」を議会が審議して決定する制度。

◆ 昨年1月から2月に行った直接請求は、選挙公営の条例、つまり例の選挙ポスター代などを候補者サイドの申請があったとき税金で負担する条例を廃止する求めでした。

このとき、議員の多数が率先して相談を進め、3月議会初日に条例が廃止になりました。

署名は「署名年月日」に書いてある日付が「**2月18日**」までのものが有効で、「2月19日」とかそれ以降の日付のものは無効です。

(署名簿の中の署名欄の見本)

署名年月日	署名者氏名	印	生年月日	略印(姓)	番号	備考
住所 山県市				断 山県市		
署名日 月 日	氏名	印	明大昭 西曆 年 月 日	略 印 晒 年月 晒		

↑日付注意

↑氏名だけは自分で記入

代筆者用↑通常は不要

署名は、ご家族などの分だけでも、お一人分でも結構です。収集を終えられた署名簿は、まことに申し訳ありませんが、**2月19日(火)までに返送**してください。



署名期限は 2月18日(月) まで

19日(火)までに返送を！！

もし、署名集めのお気持ちのある方は、お知り合いなどに声をおかけいただき、まとめてご返送などいただくと、とても助かります。今、毎日、郵便で戻ってきたり、届けてくださる方もあります。

昨年の条例廃止の署名のときは、「家が分からん」と探された方がありましたので、私の自宅前の道路の横に看板を出しました(左が公道)。どうぞ、よろしく願います。

山県市議 選挙ポスター代の水増し請求問題があらった山県市で、市議や市長の行為などを規制する倫理条例の制定を求め、寺町知正市議(54)と同市伊佐美の自営業、長屋正信さん(61)が17日、平野元市長に条例案を添えて、直接請求のための代表者証明書交付申請書を提出した。

同市では、旧高富町に倫理条例があったが、03年4月の合併で条例がなくなった。寺町さんは「町時代から町長の汚職問題が起ころなどし、水増し請求問題では、水増し請求したとされる市議6人

選挙ポスター代の水増し請求問題 倫理条例求め

2008.1.18 毎日

【宮田正和】

2008.1.18 中日

山県市 直接請求手続き開始

山県市の市民二人が十七日、平野元市長あてに政治倫理条例の制定を求める直接請求の手続きを始めた。市が十八日に告示した後、市民らは一カ月間、署名を集める。

二人は市議の寺町知正氏(同市西深瀬)、自営業長屋正信氏(同市伊佐美)。市に条例案や署名活動をする代表者証明書の交付申請書などを提出した。十九日から市内有権者の五十分の一に当たる五百一人以上の有効署名を集め、市選管の審査を受けて本請求となる。

条例案は、旧高富町の条例を土台に、職務に關連した犯罪で逮捕や起訴された市長や市議らに市民への釈明の場として説明会を開くことなどを盛り込んでいる。

市への提出書類では昨年発覚した選挙公営ポスター費水増し事件などに触れ「条例は事件などからすれば、もはや最低限の制度として不可欠な状況」としている。

寺町氏は「一般質問などを通じて、市長やほかの市議には条例制定の意思がないと分かった。条例案は、ほかの自治体で制定された条例の内容を参考にした」と話した。

このほか、市議の期末手当(ボーナス)に増額されている二割の「特別職加算」を廃止する条例案の直接請求の手続きも始めた。市議会多数派の保守系議員が三月定例会での廃止を固めているが、寺町氏は「議決を見るまじつ転ぶか分からない」とした。

(横山大輔)

山県市議会 3月定例議会 関連日程

2月20日、21日	特別委員会	22日	議会運営委員会	25日(月)	全員協議会
3月 3日(月)	定例会開会	4日(火)	一般質問提出期限・議会運営委員会		
10日(月)	議案質疑の本会議	12日(水)	13日(木)	14日(金)	常任委員会
17日(月)	18日(火)	一般質問	19日(水)	委員長報告・討論・採決	閉会

署名などについて、ご意見や質問がいろいろと届いています。その一部を紹介します。

- Q「まず、委任状に書いてから署名欄に書くんですね。」 A「はい。」
- Q「委任状に書いた私より先に署名欄に書いた人がいますが、順番はいいですか？」
A「順番はどういうふうでもいいです。」
- Q「書き間違いは？」 A「線を引いて消すなどして新しい欄に書いてください。」
- Q「委任状への『記入』はだれがやってもいいですか？」
A「あなたでも、私たち代表者でも、第三者でも、誰が記入してもいいです。」

● 昨年1月の直接請求のとき多勢の方の署名集めてくださった人からは、どうしよう、とおたずねがあり、お会いして説明しました。その要点の一部を紹介します。

Q「どうしてったらいいだろう？」

A「ボクでも、自分で(呼びかけを)やっていなかったら、趣旨に賛成し署名しようと思っても、ついつい送らないとか、そのまま忘れてしまうでしょうね。」

Q「たぶん、そういう人が多いよね。」

A「直接請求の署名って、だれか、世話して集めてくれる人が居ることが一番大事。もし、なんだったら、『書いて』って集めるのが一番。あなたが、他の人に『お宅の誰かが受任者になって、家族の人にも書いてもらって。また、取りに来るから』というのが、いちばん楽で効果的だと思いますよ。」

● 率直なご質問の電話もありました。

Q「資料を見ても、分からないところがある。ところで、よく頑張ってくれる人って、〇〇党か△△党の人が多。私は嫌い。てらまちさんは頑張っている。ニュースに『どの政党とも無関係』と書いてあるけど、〇〇党を隠しているのではないですか？」

A「率直に質問されたので、率直に答えます。どの党とも関係ないです(過去のことも今のことも説明)。ずっと前に『政党と無関係』とはっきり書いたほうがいと友人に指摘されて、それからずっと書いています。どことも関係ないですよ。」

Q「無関心といわれるかもしれないけど、私たちは、市や議会に任せている。それが、いろんなもの値上げしたりって、どういうことですか。市もだけど、てらまちさんを含めて議会もおかしいと思う。」

それに対して、私の考えは説明しましたが、弁解ふうになるのでここで書くことはやめておきます。

● 励ましの電話も。

「最近はずっと少ないけど、年配の人で、まだ、『てらまちは〇〇党や』っていう人が、たまにいます。でも、ずいぶん、そういうことも減って、変わってきましたよ。倫理条例は、もちろんそのとおりだから、心から署名に協力したいです。」

全国の新聞の購読数は、日本新聞協会などのデータでは、おおよそ

1. 読売1000万部(20%)
 2. 朝日800万部(16%)
 3. 毎日400万部(8%)
 4. 日経300万部(6%)
 5. 産経200万部
- 東海地区では中日がダントツ、岐阜県内でも中日、次に岐阜と続くと聞きます。

ところで、この全国2位、県内では中位の朝日新聞の岐阜県内版の紙面を刷新するために、昨年11月から新しい紙面づくりが計画されたそうです。

その一連として、私にも、隔週水曜日にコラムを書くように依頼がありました。新しいことをしたいという新聞社の趣旨に賛同。昨年11月から書いています。いろんなところに行っても、「読んでますよ」「おもしろい」とか言われて、さすが「本紙」は報道記事とは違うと感じています。時期が遅れますが、少しずつ紹介していきます。

新しい岐阜が見えてくる

来月6日から変わります

朝日新聞岐阜版の第2地域面(右ページ)が、11月6日付の紙面から大きく変わります。

金曜日には、エンターテインメントやスポーツ、レジャーなどの情報や読み物を詰め込んだ新紙面「ウィークエンドG」を始めます。県内に加え名古屋の情報も新設し、充実した週末を楽しみたい家族を応援します。

話題の人物へのインタビュー企画や、日々の暮らしを楽しく豊かにする情報を盛り込んだコラムも新たに始めます。

地域に密着したニュースや話題、県内の問題や事件を掘り下げた、読み応えのある「レポート岐阜」も、より多くお届けします。ご期待下さい。

【火曜日】

■「ピンチ/チャンス」

【水曜日】

■「いきいきセカンドステージ」 地域に軸足を移して暮らしを充実させたい熟年世代に発信するコラムです。園芸や有機農業に詳しい山県市議の寺町知正さん、「団塊の世代」の社会貢献や健康づくりを後押しするNPO理事長の中島幸雄さんが交代で執筆します。

【金曜日】

■「文化・芸能Gトーク」

働く人にエール「ピンチ/チャンス」◆県出身著名人に聞く「Gトーク」

2007年11月7日(水) 朝日新聞

稲刈りは農家にとつての秋の区切り。今は市街地で暮らす人でも「実家は米を作っている」と言う人は少なくない。田舎暮らしに入った人にも身近な作業の一つだろう。ちょうど、私のところも先日、稲刈りをすませたばかり。稲の品種は、もともと地元・岐阜の最もおいしいお米として知られるハツシモだ。

セカンドステージ

有機農業家 寺町知正



お米ハツシモ 岐阜の味

ちる。硬質米で寿司米にも使われるハツシモは味が落ちない。「年を越すと味が増す」と言う人がいるほどだ。

ハツシモは、背が高く、秋に倒伏して稲刈りに困るとして一般農家に好まれない。しかし、ベテラン農家は「最近はやが低く倒れにくくなった」と言う。私は、収穫量より味を大事にする場合の気配りとして、

化学肥料ではなく市販品でよいから発酵した菜種粕などをお米を除草剤などの農薬を使わずに作って30年近くになる。味も質も自慢だ。今はその新米を食べている。農家ならではの甘い。最近、家庭菜園やプチ農業、田舎暮らしを実践する人が増えたが、始めてから苦勞する人が少なくない。

残念ながら、テクニックを無視した我流では苦勞が絶えない。

ちよつとしたコツや発想の転換で、農作業はぐつと楽しくなる。そんな視点を大切にしながら、田舎暮らしの場から発信しようと思

てらまち・ともまさ 岡山大農学部園芸学科を卒業後、有機農業を始め、米や野菜を消費者に直接届ける業態を続けた。現在はオンブズマン活動で知られる山県市議。54歳。